

## 夏休みの宿題

教育相談専門員 沼波かおり

ちょっと前から、「あみぐるみ」にはまっている。かぎ針と毛糸で、来る日も来る日もひたすら目数をかぞえながら、せっせと「ねこ」や「うさぎ」「くま」を編んでいる。この勢いだと、動物園ができそうだ。誰もほめてくれないが、自分ではなかなかの出来映えと自画自賛している。今時の人ならインスタグラムとかブログとかいうのに載せるのだろうが、その気は全く無い。ただただ完成を目指し集中する。何もかも忘れて没頭する。特に顔を作るときは、自分の意思とは別に、自然に目や鼻が浮かび上がってくる、その感じにはまったのかもしれない。ほとんど「円空さん」の世界だ。



小さい頃、工作をすると彫刻刀やのこぎりで必ずどこかにケガをした。裁縫のときは針で何度も指を刺し、運針もなかなかまっすぐできず、雑巾を一枚縫うのにも脂汗が出た。あまりの不器用さに母親は絶句した。自分の普段着も、お人形の洋服も、母や姉が作ってくれた。そんなわけで、夏休みの終わりには、片づかない工作の宿題を前に、泣きべその日々だった。休み明けには、親の助けを借り、自分一人では絶対出来そうにない妙にちゃんとした作品を、ドキドキしながら提出したものだ。

なぜあんなに自分は不器用だったのだろう、とこのごろよく考える。実際苦手な分野だったところに、周囲の人間に何度も何度も不器用と言われ、「自分は不器用なんだ」とレッテルを貼ってしまった。その<刷り込み>と<決めつけ>がすべてだったというところか。それとも大人になると、自然と身に付く「能力」があるのだろうか?・・・当然のことながら、裁縫や工作の類はなるべく避けて通るようになっていった。

転機は、子どもの夏休みとともにやってきた。遺伝とは恐ろしいもので、ありえないくらい不器用な息子の、夏休みの宿題を手伝っている自分がいた。大人になってやってみたら、結構楽しくおもしろい作業だった。小学生が作るくらいの出来映えにはなっていた。息子の宿題のおかげで、やっと20年越しの自分の「夏休みの宿題」が終わった気がした。時間はかかったが、人は変われる生き物で、「人生そのうち何とかなる」と確信したのだった。

### ☆ カウンセラーの先生方が来校されます

本校には次のカウンセラーの先生方が毎月来校されます。「辛いけれど、どうしていいかわからない」という人、「よく眠れない」「食欲がない」「体調が良くない」などの症状がある人は、ぜひ先生方に相談してみてください。秘密は守られますので安心してください。

#### 《カウンセラーの先生と9月の相談日》

● 沼波 かおり先生 (本校教育相談専門員)

毎週火曜日、木曜日 午後1時～6時40分 (※前期末考査期間は除く)

● 堀 智哉先生 (各務原病院 臨床心理士)

毎週月曜日、金曜日 午後7時～9時 (※前期末考査期間は除く)

● 鷺見 栄子先生 (社会福祉士)

9月2日(金)、16日(金)、23日(金)、30日(金) 午後2時～4時

☆ 生徒のみなさんへ…面談は予約制です。HR担任、教育相談係(教育相談室:本館3階)、養護教諭(保健室:本館1階)の先生のいずれかに申し込んでください。

★ 保護者の方へ…カウンセラーの先生との面談は、保護者の方のみでも受け付けます。お申し込みは、定時制教育相談係(長瀬・岩佐・服部)までお願いします。

電話番号は(058)275-7185です。どうぞお気軽に申し込んでください。